

## 第 7 回次期生物多様性国家戦略研究会のテーマと主な論点等

## 1. テーマ

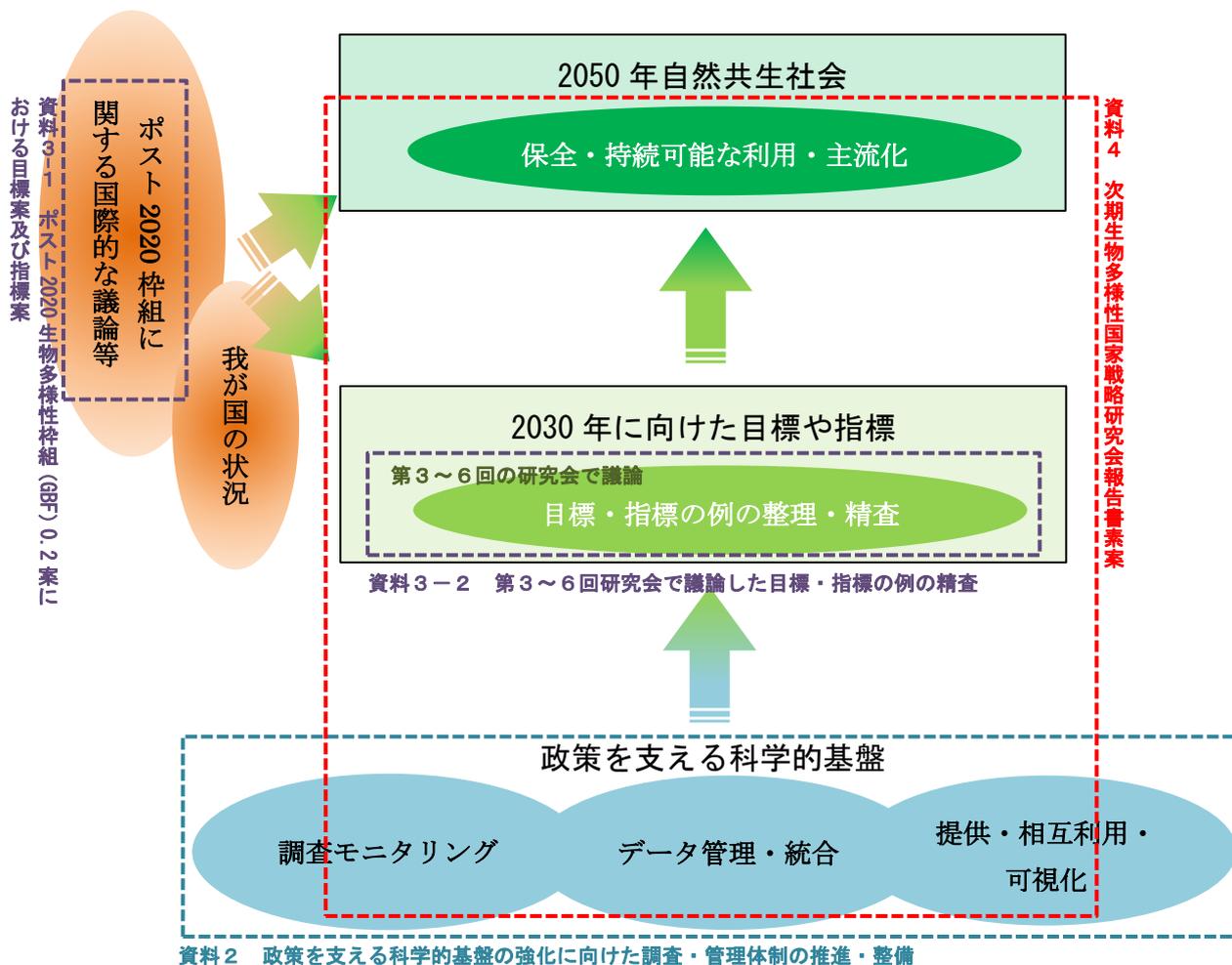
「ポスト 2020 生物多様性枠組の策定に向けた国際的な検討を踏まえた、自然共生社会の実現に向けた方策と基盤整備」

政策を支える科学的基盤の強化に向け必要となる調査モニタリングやデータの収集・蓄積・管理・活用体制の整備、生物多様性保全や調査のための科学技術を議論した上で、これまで議論してきた目標・指標の例や本研究会の検討結果のとりまとめの方向性について議論する。

- 今回は、政策を支える科学的基盤をキーワードに、次の 10 年間に必要になる調査体制やデータベース統合化等を議論。
- これまでの目標・指標の例を整理しつつ、本研究会報告書（今回は素案を提示）のとりまとめの方向性について議論。

別添 1：各回のテーマ（第 2 回研究会資料 4 の更新）

## 今回の資料構成と議論の流れ



## 2. 議事2・議事3の目標・指標の例の主な論点

### ①「2030 マイルストーン（状態）」

- （現行戦略にはない）「2030 マイルストーン（状態）」として、どのような
- ・目標設定（状態）があるか。
  - ・達成度合いを測る指標・数値目標の設定があるか。

### ②社会実装に向けた要素（ターゲット）

「2030 マイルストーン（状態）」に向け、各取組の社会実装を進めるために、どのような

- ・基本戦略・行動目標（10年間の重点的行動）や、方策があるか。
- ・その進捗・達成を測る指標・数値目標の設定があるか。
- ・指標のベースラインや、達成状況の解釈があるか。

### ③参画・行動を促す要素

多様な主体の参画や行動を促進する要素として、どのような

- ・連携・協働に向けた実現条件があるか。
- ・行動を促す指標や数値目標の設定があるか。

### ④上記①～③に関するエビデンスや事例。

### ⑤上記②～③に関する生物多様性保全上の意義・程度。

### ⑥上記①～③と気候変動対策やポストコロナ社会との関係。

## 3. ポスト2020生物多様性枠組等の検討状況

- ・「生物多様性国家戦略2012-2020」の実施状況の点検評価結果は、本年1月29日に公表（参考資料4参照）。
- ・「生物多様性と生態系サービスの総合評価（JBO3）」は3月中に公表予定。
- ・COP15は今のところ2021年10～11月頃に開催の見込み（CBDウェビナー資料に基づく）。

## 4. 次期生物多様性国家戦略策定に向けたスケジュール

- ・COP15が2021年10～11月頃に開催される場合、今のところ2021年夏頃から中央環境審議会自然環境部会での検討を開始し、2021年度末を目安に策定できるよう進める方針。
- ・本研究会は、2021年夏前を目安に継続し、JBO3の結果を踏まえつつ、新型コロナウイルス感染症を踏まえた自然共生社会と生物多様性関連施策や、2050年カーボンニュートラルを踏まえた生物多様性・生態系サービスからの貢献等についてさらに議論し、本研究会の報告書に盛り込みたい。